

事業名：コミュニティ・スクール事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内市立小・中学校

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内市立小・中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

全小中学校の学校運営委員会委員に報酬を支給するとともに、各学校運営委員会を支援する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	コミュニティ・スクール設置校	校	26	25	25	25
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校・地域・家庭が、目指す子ども像を共有し、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	学校運営委員会開催回数	回	76	75	76	75
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,581	1,757	1,590	1,679
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,844	3,871
総事業費 (A+B)		千円	5,390	5,571	5,434	5,550

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	学校運営委員会を運営するための経費	・学校運営委員会委員報酬	999千円
		・市外研修旅費	16千円
		・広報活動費等諸経費	575千円

事業開始背景
平成16年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、学校運営に関して保護者や地域住民などが運営に参画するための機関として、教育委員会が指定する学校に学校運営協議会を置くことが可能となり、コミュニティ・スクールが法により制度化された。 当市においては、平成27年12月に市立小中学校全校への導入の方針を定め、これまでの学校支援地域本部、学校評議員、学校関係者評価委員などの取組を基盤として、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う「えべつ型コミュニティ・スクール」を平成29年4月から全小中学校に導入した。
事業を取り巻く環境変化
平成29年4月の法改正により、コミュニティ・スクールの導入が教育委員会の努力義務となっている。 道内では、平成29年4月1日の時点で164校、令和元年5月1日現在で702校（いずれも幼稚園等を含む）でコミュニティ・スクールが導入されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p style="text-align: right;">▶</p> <p>導入3年目となり、各学校とも1回目の任期が終わったところで学校・委員会などから意見を募った。その中には、地域住民が学校運営に参画する機会が従来より増えたこと、学校、地域、家庭の連携が深められたこと、地域が学校に協力的になったとの意見があり、少しずつ成果が上がっている。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p style="text-align: right;">▶</p> <p>地域住民の学校運営参画の機会が確保され、学校と地域のつながりがさらに深まることで成果向上が期待される。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	
<p style="text-align: right;">▶</p> <p>本事業は、各小中学校運営委員会を運営する上で、必要な委員報酬と事務経費の一部を予算措置しているものであり、必要最低限と判断する。</p>		

事業名：遠距離通学送迎事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育	戦略						
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

遠距離通学が必要な児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	遠距離通学が必要な児童生徒数	人	112	122	112	112
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

登下校の予定時間に合わせ、委託先の会社がスクールバス及びスクールタクシーを運行し、児童生徒を送迎する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	延べ運行時間数	時間	4,047	4,178	3,692	4,400
活動指標 2	利用児童生徒数	人	112	122	112	112

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

居住する遠隔地から学校までの間を、安全に通学させる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事故等により、スクールバスを運行できなかった便数	便	0	0	0	0
成果指標 2	事故等により、スクールタクシーを運行できなかった便数	便	0	0	0	0

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	51,232	51,852	47,983	56,050
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,844	3,871
総事業費 (A+B)		千円	55,041	55,666	51,827	59,921

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	スクールバス及びスクールタクシーの運行	・小学校	11,849千円
		・中学校	36,134千円

事業開始背景

本事業は、遠距離通学が必要な児童生徒を対象に、居住地から学校までの間を、安全に通学することを目的として開始した。

事業を取り巻く環境変化

平成23年度から、江北中学校の江別第三中学校への統合に当たり、スクールバス路線を増やし、平成25年度からは角山中学校の中央中学校への統合に当たり、スクールバス路線を増やした。平成27年度からは、新運賃・料金制度により委託料の大幅な増加が予想されることから、スクールバスのほか、スクールタクシーの運行を並行して実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	通学に際し、事故は発生していない。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	必要最小限の範囲を対象にしている。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	年により増減はあるものの、全体的に利用者数が減少傾向であることから、学校及び保護者と協議して、路線数や運行方法について検討する。
	なし			

事業名：市内私立高校助成金

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育		戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実		具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内に私立高校を設置する学校法人

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内の私立高校数	校	2	2	2	2
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市私立学校補助金交付要綱」に基づき、私立高校の特色のある教育を支援又は教材教具の充実を図るために必要な補助をする。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	6,000	6,000	6,000	6,000
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

各校の建学精神に基づき個性豊かな教育活動を積極的に展開し、特色ある教育が一層促進できるようになる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	市内の中学校卒業生のうち、市内の私立高校に入学する生徒の割合	%	7	8	7	8
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	6,000	6,000	6,000	6,000
正職員人件費 (B)		千円	1,143	1,144	1,153	1,161
総事業費 (A+B)		千円	7,143	7,144	7,153	7,161

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市内私立高校に対し助成金を支出	<ul style="list-style-type: none"> 特色のある教育を実施するための事業への補助金 教材教具の整備事業への補助金 その他教育委員会が必要と認める事業の補助金 6,000千円 	

事業開始背景
教育条件の維持・向上と充実、高校の健全な発展と振興による経営基盤の確立と安定を高め、公立、私立の機会均等と保護者負担の軽減を図るため、教材・教具整備及び学校運営に係る費用の一部について、平成7年度から補助金を交付している。
事業を取り巻く環境変化
特色ある教育を比較検討するなど多様化が進み、その選択において私立高校を志望する気運も高まってきている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				補助に対する一定の教育的取り組みは行われている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				学校予算に占める割合が低く、現状の補助額では成果の向上余地は大きくない。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">現状の補助額は最低限と判断する。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	現状の補助額は最低限と判断する。	なし	
ある	理由 根拠	▶				現状の補助額は最低限と判断する。	
なし							

事業名：地域一体型学校の顔づくり事業

総務課 総務係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	平成13年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内市立小・中学校

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内市立小・中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりを進めるため、事業を行う小中学校に対し、事業費の一部を支援する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	事業実践項目数	項目	39	38	38	38
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

家庭・地域が一体となって事業を展開し「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりを進めることにより、教育の充実を図ることができるようになる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	地域住民等の事業への参加人数	人	7,597	7,451	8,878	7,600
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	3,338	3,265	3,105	2,966
正職員人件費 (B)		千円	1,905	1,907	1,153	1,935
総事業費 (A+B)		千円	5,243	5,172	4,258	4,901

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	各学校の事業に要する経費の一部を学校配分予算として支出	・講師の謝礼等	530千円
		・消耗品購入費	2,040千円

事業開始背景
本事業は、「特色のある学校」、「開かれた学校」づくりの実現に向けて、各学校が地域の特性などを活かして実践項目を掲げ活動していくことにより、江別市全体の教育力を向上することを目的に、平成13年度から実施している。
事業を取り巻く環境変化
事業への参加人数は増加傾向にあり、活発な事業が展開されていると言える。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：学校施設整備事業（大規模改造）

総務課 施設係

政策	06 子育て・教育	戦略	
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	補助
			補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学校

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市内小中学校数	校	26	25	25	25
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

建築後20年以上経過したもの、教育内容・方法に適合しないもの、消防法等の法令に適合しないものについて、改造を行う。
 ・屋根、外壁、建具等の改修
 ・教室等の間取りの変更
 ・設備機器の更新、新設 など

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 改修事業数	事業	2	5	2	0
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・経年変化による、損耗・機能低下を復旧する
 ・教育環境を改善する
 ・建物の耐久性を確保する
 ・各種法令に適合させる

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 実施した事業数	事業	2	5	2	0
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	35,456	37,630	13,819	0
正職員人件費 (B)	千円	2,667	3,051	3,844	0
総事業費 (A+B)	千円	38,123	40,681	17,663	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	大麻中学校屋外避難階段建替実施設計委託 大麻東中学校屋外避難階段建替工事	大麻中学校屋外避難階段建替実施設計委託 1,965千円 大麻東中学校屋外避難階段建替工事 11,854千円

事業開始背景

教育環境として学校施設を維持し、耐久性を確保するためには、経年により通常発生する学校建物の損傷や機能低下に対する復旧措置及び教育ニーズの変化に応じた建物の用途変更に伴う改造等が必要であり、これらを実施する大規模改造が必要となってきた。

事業を取り巻く環境変化

総合的な学習、少人数指導など教育内容・方法の変更があり、従来の教室配置・間取りでは対応が難しくなっている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	各学校施設の不具合や老朽度等を検討した上で実施する工事を選定しており、各種工事による安全確保や環境維持としての成果は上がっている。 。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	学校施設では、不具合や老朽化等により改修や修繕を実施すべき部位が多くあり、工事を実施するほど、安全性を確保できる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	安全性の確保には、継続的に修繕や改修工事をする必要がある。
	なし		

事業名：地域体験活動事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	平成14年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市内小中学生、保護者
・地域住民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内小中学校児童生徒数	人	8,726	8,668	8,582	8,583
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

・地域・学校・家庭と連携を図りながら、地域間や異世代との交流による体験活動を、子どもたちに提供する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	実施事業数	事業	3	4	3	2
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・体験活動を通して子どもの可能性を引き出すとともに、地域・学校・家庭が連携することにより、教育力の向上が図られる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業参加者数	人	45	57	67	35
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	293	357	206	117
正職員人件費 (B)		千円	3,809	3,814	3,075	3,483
総事業費 (A+B)		千円	4,102	4,171	3,281	3,600

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	【生活体験】1泊2日の宿泊学習 【自然体験】ツリーイング	一般報償費	131千円
		消耗品費	75千円

事業開始背景

・平成15年度から市内で特色ある活動をしている小学校同士の地域間交流事業として「江別市体験活動ボランティア活動支援センター」と連携し、自然体験や農業・商業体験等を実施してきた。平成29、30年度には、支援センターと協議の上で、地域と連携した2泊3日の宿泊型体験事業を行ったが、平成30年度末をもって支援センターが休止。令和元年度からは、非日常の体験を子ども達に提供し、学力だけでは計れない感性・意欲・忍耐力などを育成することを旨として、新たに生活体験活動「1泊2日の宿泊学習」及び自然体験活動「ツリーイング」の2事業を実施している。

事業を取り巻く環境変化

- ・子どもの可能性を引き出す教育の実践が必要である。
- ・学校・家庭・地域が連携した生涯学習環境の構築が必要である。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：子ども会育成事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和36年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会（江別、野幌、大麻・文京台地区育成会）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	子ども会の数	団体	3	3	3	3
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会が取り組む、幅広い年齢層の子どもたちへの豊かな体験活動と各地区育成会の行う活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	878	758	737	737
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・江別市子ども会育成連絡協議会及び各地区育成会が実施する事業への参加者数が増え、活動が活発化する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	子ども会活動への地域住民の参加延べ数	人	309	310	298	297
成果指標 2	子ども会活動の取り組み数	件	38	38	37	38

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	878	758	737	737
正職員人件費 (B)		千円	3,809	2,669	2,690	2,709
総事業費 (A+B)		千円	4,687	3,427	3,427	3,446

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生相撲大会、青少年キャンプ村、ドッチビー体験会、小中学生かるた大会の開催 ・こいのぼりフェスティバル、スノーフェスティバル等への協力 ・各地区育成会との連携、協力 ・ジュニアリーダー養成の支援 ・会議等の開催 ・活動団体に対し補助金を交付 	子ども会への補助金 737千円

事業開始背景

昭和30年代から増加した青少年の非行問題対策と青少年の健全育成のために地域の育成会が行う諸活動の円滑化を目的として開始した。

事業を取り巻く環境変化

少子化や地域社会のつながりが希薄化しているとともに、子どもたちも習い事や部活動等で忙しく、地域の大人と触れ合う機会が減少してきている。一方で、子どもを見守る大人たちの固定化、高齢化が顕著であり、大人の世代交代が課題となってきている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	

事業名：成人式開催事業

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和33年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	行事イベント補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

成人のつどい実行委員会
新成人

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	実行委員数	人	4	7	5	6
対象指標 2	新成人数	人	1,541	1,385	1,452	1,421

手段（事務事業の内容、手法）

- ・その年度に新成人となる青年で構成する実行委員会が、自ら企画準備して「成人のつどい」を開催する。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市成人のつどい実行委員会に対して、アトラクション出演謝礼、交歓会景品代など、成人のつどい開催に要する経費について補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	220	220	190	180
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・新成人を祝福・激励し、参加した新成人が責任ある自立した社会人として、よりよい社会の創造に貢献していくことを決意し、市民として連帯感を高めることを目的に実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	成人のつどい参加者数	人	952	855	861	865
成果指標 2	参加率	%	61.7	61.7	59.3	60.9

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	505	492	513	437
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	2,790	2,780	2,819	2,759

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員の募集 ・実行委員会の開催 ・成人対象者の抽出 ・案内葉書の作成、発送 ・しおり、封筒の作成 ・成人のつどい（式典・交歓会）の開催 ・実行委員会に対し補助金を交付 	<ul style="list-style-type: none"> 成人のつどいプログラム等印刷費 63千円 会場使用料 167千円 実行委員会への補助 190千円 案内状送料 93千円

事業開始背景

実行委員会形式による補助事業となったのは、大人としての自覚を促す式典を円滑かつ静粛に行うため、新成人からなる実行委員会と行政が協働することで一体感を持たせ、式典中の問題行動を抑える必要があったため。

事業を取り巻く環境変化

江別市では過去にモラルが問題になる行動はあったが、近年は大きな問題もなく安定している。また、成人式を真面目に受け止めている新成人が多くおり、式典を心待ちにしている新成人と家族が大多数である。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	少子化の影響もあり、成人のつどいの参加者数、出席率ともに減少傾向にある。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	今後も少子化の影響による新成人の減少が予想されるが、成人式を心待ちにしている人もおり、参加率の向上は見込める。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	封筒印刷の外部発注を取りやめるなど、経費削減の余地はある。
	なし		

事業名：発明教室開設事業

【事業番号 465】

生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	平成 5年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・江別市少年少女発明クラブ

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	対象クラブ数	団体	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

・小中学校への周知や市広報などを通して参加者を募集し、専任指導員のもものづくり教室を開講する。
 ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、発明教室を運営する江別市少年少女発明クラブに対し、補助金を交付する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	581	581	581	561
活動指標 2	開催回数	回	24	24	22	22

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・江別市少年少女発明クラブが開講する発明教室に子ども達が参加することにより、自らの手で作り上げることへの関心を高め、想像力を養い、集団活動や体験学習の経験を通して、協調性と豊かな創造性を身に付ける。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	作品展出品数	件	39	46	43	40
成果指標 2	延べ活動人数	人	356	404	383	440

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	581	581	581	561
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	1,537	1,548
総事業費 (A+B)		千円	2,866	2,869	2,118	2,109

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 4月から1月：製作教室 夏冬の作品展示会 発明教室に対し補助金を交付 	<ul style="list-style-type: none"> 発明教室への補助 581千円

事業開始背景 <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館で夏・冬休みに工作教室が行われていたが、青少年の物づくりの機会が減少していたことから、平成13年度から通年事業とし、作品展を開催するなど内容を充実させた。物づくりの技術のほか、他校の児童生徒との集団活動を通して協調性や社会性を育む場となっている。
事業を取り巻く環境変化 <ul style="list-style-type: none"> 平成17年度から少年少女発明教室に補助金を交付し、自主活動の促進を図る。 平成13年度から江別小学校の余裕教室利用対策としての位置付けから、江別小学校内の専用の工作室で活動していたが、同校の閉校に伴い、平成28年度から大麻東小学校の余裕教室で活動している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない	理由根拠 <p>・開講当初の4月には道具の扱いが不慣れであった子どもたちも、回数を重ねるたびに上達し、作品の出来栄も向上している様子が見られる。このことは、子どもたちの達成感を充足させているとともに、教室開講の趣旨が達せられていると考えられ、成果は向上していると思われる。</p>
	<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小	理由根拠 <p>・道具の扱いについては、参加者の安全確保には、指導者1人に対し、受け持てる子どもは4人程度が限界である。さらなる成果の向上には、指導者の確保が必要である。</p>
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由根拠 <p>・材料の調達については、端材の提供を受けるなど、コストを抑える工夫をしている。これ以上のコスト減は活動の衰退を招く。</p>

政策	06 子育て・教育			戦略					
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策					
開始年度	昭和55年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	団体運営補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・江別市青少年のための市民会議

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市民会議の会員数（個人）	人	190	177	166	182
対象指標 2	市民会議の会員数（団体）	団体	57	55	54	56

手段（事務事業の内容、手法）

・江別市青少年のための市民会議が取り組む、青少年の健全育成等の啓発活動や、青少年の非行防止活動及び有害環境の点検活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、活動費の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	129	129	120	120
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・江別市青少年のための市民会議が行う活動が充実し、青少年を取り巻く環境が向上していく。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	主催事業協力者数	人	86	74	52	77
成果指標 2	非行防止標語応募件数	件	2,612	1,337	464	1,471

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	129	129	120	120
正職員人件費 (B)		千円	3,809	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	3,938	2,417	2,426	2,442

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	以下の事業内容を実施するため、補助金を支出する。 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成啓発などの標語募集、表彰 ・少年の主張石狩地区大会江別代表者の選考 ・青少年善行賞の選定、表彰 ・街頭啓発の実施 ・市民向け講演会の開催 ・会議等の開催 	・青少年のための市民会議への補助金 120千円

事業開始背景
<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年代に青少年の非行が社会問題となり、地域ぐるみでの非行問題改善、青少年を取り巻く環境の浄化が必要となった。その流れを受け、昭和55年に市民により結成され、青少年の健全育成のための啓発活動等に取組んできている。
事業を取り巻く環境変化
<ul style="list-style-type: none"> ・近年、SNSなどのインターネットを介した青少年の非行や犯罪が社会問題化しており、時代に即した青少年教育活動を取り入れる必要がある。 ・市民運動としての拡大充実を図ることに努めているが、会員の高齢化による退会者が年々増え、会員数が減少傾向にあり、会費を財源とする団体のため財政面で苦しい状況になってきている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

事業名：青少年キャンプ村事業

【事業番号 467】
生涯学習課 青少年係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	昭和43年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小学校4年生から中学校3年生の児童生徒

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内の小学校4年生から中学校3年生の児童及び生徒数	人	5,848	5,773	5,869	5,911
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

自然体験事業として日常の生活から離れ、自然豊かな環境の中で青少年キャンプ村を1泊2日の日程で開設する。大学生、高校生からなるボランティアサークルの指導によりキャンプを行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	キャンプ村開催日数	日	4	5	5	5
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

野外生活の楽しさを感じるとともに、異年齢との交流及び集団生活を通して、規律ある生活態度・生活技術を学び、子どもたちの協調性や社会性を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	参加グループ数	グループ	81	75	72	76
成果指標 2	青少年キャンプ村参加人数	人	419	374	334	376

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	800	625	643	724
正職員人件費 (B)		千円	4,571	4,576	3,459	3,483
総事業費 (A+B)		千円	5,371	5,201	4,102	4,207

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	8月上旬に江別市森林キャンプ場において、青少年キャンプ村を1泊2日の日程で開設する。 ※令和元年度はクマ出没の影響により、アースドリーム角山農場に会場変更 大学生、高校生からなるボランティアサークルの指導によりキャンプを行う。	生活指導員謝礼 336千円 バス借上げ料 281千円

事業開始背景

昭和43年開始。
高度経済成長のもと、生活様式の急激な変化等により、自然の中で行われる総合的な野外活動の体験活動の取組が健全な青少年の育成にとって重要なものと認識されはじめた。

事業を取り巻く環境変化

50回以上開催している伝統のある事業であり、江別市の子ども達にとって野外体験活動の楽しさを知るイベントになっている。
森林キャンプ場は、札幌近郊にある整備されたキャンプ場として利用者が年々増えてきている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	リピーターが多く、参加児童生徒及び保護者の満足度が高いことから、成果は向上している。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	体験プログラムの充実や、事業のPR活動を強化することで参加人数が増える余地あり。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	受益者負担の観点から参加者から参加費を徴収し、市の負担は最小限となっており、これ以上のコスト削減は成果の低下を招く。
	なし			

事業名：青少年文化賞顕彰事業

【事業番号 468】

生涯学習課 生涯学習係

政策	06 子育て・教育			戦略				
取組の基本方針	02 子どもの教育の充実			具体的施策				
開始年度	昭和62年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

小学生以上24歳以下の市民

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	小学生以上24歳以下の市民	人	20,273	20,141	19,969	19,969
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

各種コンクール等において優秀な成績をおさめるなど、市内における芸術及び文化の振興に貢献した青少年に対し各賞を贈る。贈呈式は青少年スポーツ賞と共同開催している。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	審査会開催回数	回	3	3	3	3
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

創造性豊かな芸術、文化に対する意識を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	受賞者数	人	25	19	21	21
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	429	327	356	360
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	1,191	1,090	1,125	1,134

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・教育機関、文化団体等に対し該当者の推薦依頼を行い、推薦があった中から表彰基準を満たしたものについて、受賞歴やコンクールの内容等を精査し、庁議において審議の上、表彰者を決定する。	・盾代	356千円

事業開始背景
昭和62年に第1回文化賞・文化奨励賞の授与を開始。
事業を取り巻く環境変化
市内の各学校等において文化芸術教育への取組が盛んになり受賞対象者が増加傾向にある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> 受賞実績の内容やレベルが向上している。また、過去の受賞者がその後も全国大会に出場する事例がある。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> 受賞実績の内容やレベルが向上している。また、過去の受賞者がその後も全国大会に出場する事例がある。 	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> 受賞実績の内容やレベルが向上している。また、過去の受賞者がその後も全国大会に出場する事例がある。 	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> 活動を行う個人・団体の意欲が向上し、優秀な成績をおさめる青少年の増加につながっている。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う個人・団体の意欲が向上し、優秀な成績をおさめる青少年の増加につながっている。 	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う個人・団体の意欲が向上し、優秀な成績をおさめる青少年の増加につながっている。 	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">▶</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> 表彰楯を廃止して表彰状のみとするは、表彰の意義の低下につながり、スポーツ表彰との整合性の観点からも難しい。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	<ul style="list-style-type: none"> 表彰楯を廃止して表彰状のみとするは、表彰の意義の低下につながり、スポーツ表彰との整合性の観点からも難しい。 	なし	
ある	理由 根拠	▶				<ul style="list-style-type: none"> 表彰楯を廃止して表彰状のみとするは、表彰の意義の低下につながり、スポーツ表彰との整合性の観点からも難しい。 	
なし							